

## 第3学年 国語科学習指導案

日時 平成16年10月13日(水)  
児童 男子9名 計 9名  
指導者 教諭 熊谷 亜紀子

- 1 単元名 分かりやすく書いてせつ明しよう  
教材名 せつ明書をつくろう

2 単元について

(1) 単元の主目標

学習指導要領国語科の3・4年生の「書くこと」の目標は「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。」である。その中でも特に内容工「大切なことを明確にしながら、段落と段落の続き方に注意して書くこと。」を中心に指導するために本単元を設定した。

主目標は、「自分が得意なことについて分かりやすく説明する文章を書き、友達に伝えることができる。」である。

その他に、学習指導要領国語科の3・4年生の「書くこと」の内容オ「文章のよいところを見つけたり、間違いを正したりすること。」についても単元を通し、関連して指導していく。

(2) 単元について

本単元では、自分が経験して上手になったことや得意になったことなどを、相手に分かりやすく説明するために事柄ごとのまとまりを意識し、段落を考えて文章を書く学習を行う。せつ明書作りを通して、相手に分かりやすく説明するためには、できるまでの過程を段階的に区切り、小見出しを付けて説明する、様子を具体的に表す言葉、呼びかけや励ましの言葉を使うなど、どのようなことを考え、工夫していけばよいかを学ぶことができる。

(3) 子供の実態

子供たちはこれまでに、「しょうたいじょうを作ろう」では、「だれに」「何を」をはっきりさせて、「大事なことを落とさずに書く。」ことを学んできた。また、「ありの行列」では、「段落」について学び、段落を少し意識して文章を書くことができるようになってきた。「知っている場所を教えます」では、文章を説明の順序で組み立て、まとまりに気をつけて書くことを学んできた。

日常活動では、日記や行事作文等で、書く必要のある事柄を考え、まとまりに気をつけて書く練習をしてきた。その結果、書くことには意欲的に取り組むようになってきているが、書き方が分からなかったり、書く内容に困って、躓く子どもも見られる。また、本単元で学習する「事柄ごとのまとまりを意識し、段落を考えて書く力」は、十分に育っていないため、さらに指導が必要と考えられる。

(4) 単元と子供とのかかわり

説明書は、読み手がよく分かるように、手順などを正確に順序立てて伝えるためのものである。

しかし、子供たちは、生活の中で説明書を見たり、読んだりした経験は少なく、その特徴についても分かっていない。

そこで、本単元では、いろいろな説明書を実際に見ながら、説明書は、手順などを正確に順序立てて書いていることを気づかせたい。また、教材文から、相手に分かりやすく書くためには、事柄ごとのまとまりや順序に気をつけて書くことを学ばせ、自分たちの説明書作りに生かしていきたい。

(5) 指導にあたって

第1次では、「できるようになりたい」「教えてあげたい」という気持ちを大切にしながら、自慢大会を行う。次に、「チビッコ先生になろう」で、「だれに、何を教える先生になるか」をはっきりさせ、相手意識・目的意識をしっかりと持たせる。そのことによって、第2次以降も相手や目的を意識しながら、書く活動を進めていきたい。

本時では、組立て表をもとに作業や順序に注意しながら、文末表現に気をつけ、相手に呼びかけるような文章を書くようにさせたい。また、前時までに学習した例文で書く視点を確認し、支援を要する子どもに助言したい。

評価活動については、自分の書いたものについて、視点したがって振り返るようにさせたい。また、友達作品を読んだり、実際に試して友達作品のよさに気づけるようにしたい。

### 3 単元指導目標

#### 単元の主目標

自分が得意なことについて分かりやすく説明する文章を書き、友達に伝えることができる。

#### 【国語への関心・意欲・態度】

説明しようとする事柄を思い起こして、相手によく分かるように工夫しながら説明書を書くとする。

#### 【書くこと】

自分の経験したことで説明したいことの内容が相手に分かるように、段落を考えて説明書を書くことができる。 (書 工)

説明書を読み合い、文章のよいところを見つけたり、間違いを正したりすることができる。 (書 オ)

#### 【言語事項】

文章全体における段落の役割を理解することができる。 (言語 オ)

4 単元指導計画（13時間）

過程	時間	学 習 活 動	評 価 規 準
第 1 次	1	「ぼくの自慢大会」を開き、説明書を書く必要感をもつ。 ・自慢することは複数でもよいことにする。	単元の見通しを持ち、学習内容を把握しようとしている。【関】 今まで自分ができるようになったことや得意なことを見つけ出し、書き出している。【書】
	2	「チビッコ先生になろう」で「だれに」「何を」教えるのかを決める。 ・自慢大会を元、チビッコ先生と生徒をきめる。	「だれに」「何を」教えるのかをはっきりさせようとしている。【関】 「だれに」「何を」教えるのかを尋ね合い、知らせる相手と事柄をはっきりさせている。【書】 新出漢字の読みや語句の意味について、理解している。【言】
第 2 次	3 ・ 4 ・ 5	教材文の説明をもとに、説明書の書き方を理解する。 ・相手に分かりやすい説明書には、どんな内容が必要か考える。 (表題・目次・注意事項・本文) ・書き方の工夫 (一文を短く・目次の順序・一言アドバイス・励ましの言葉・字の大きさや色) ・横書きの書き方 共通教材で簡単な組立て表を作り、記述する。 ・教材文のよい点と比較しながら、書く。	教材文から、文章構成や説明書特有の叙述の決まりや工夫を考え、カードの書き方を把握しようとしている。【関】 目次が段落ごとに項目立てて書いてあること、題、説明の工夫に気づいて書いている。【書】 横書きの決まりや数字の決まり、コンマの書き方などを理解している。【言】 教材文で学習した事を生かしながら、簡単に組立て表を作ったり、説明書を書こうとしている。【関】 書く事柄と段落の関係を意識しながら組立て表を作ったり、書く事柄を工夫して文章を書いている。【書】
	6	組立て表の説明書の題、目次を決める。 ・読みたくなったり、やってみたくなるような題を考える。 ・無理のない細かいステップで考える。 ・作業や練習の順序に従って、目次の順番を決める。	事例作文を参考にして分かりやすい説明書にするために題名を決めたり目次を立てたりしようとしている。【関】 実演したり友達や教師と話し合ったりしながら、書く段落を決めている。【書】 段落の役割について理解している。【言】
	7 ・ 8	組立て表の目次の項目ごとに、書く材料を選ぶ。 ・単語や箇条書きで短くメモする。 ・必要な内容を選材し、説明内容のまとめごとに分ける。	書く事柄と段落の関係を意識しながら組立て表を作ろうとしている。【関】 目次ごとに書く内容を決めて組立て表を作っている。【書】 段落の役割について理解している。【言】
第 3 次	9 本時 ・ 10	組立て表に従って、説明書を書く。	組立て表をもとに事柄と段落の関係を考え、読み手に分かりやすい説明書を書こうとしている。【関】 組立て表をもとに事柄と段落の関係を考え、書く事柄を工夫して文章を書いている。【書】 誤字や脱字がないかを確認している。 横書きの決まり、数字やコンマなどの書き方を理解し、確かめながら書いている。【言】
	11 ・ 12	書いた説明書をもとに話し合ったり、友達に試してもらったりしながら、改善点を見つけ、分かりやすいように書き直し、清書する。	自分が書いた文章のよいところを見つけたり間違いを直したりしようとしている。【関】 読み手にことを考え、絵を入れるなどの工夫をして分かりやすく書いている。【書】 漢字や語句について理解している。【言】
第 3 次	13	書いた文章を読み合ったり、実際に試したりして、感想を話し合う。	友達の説明書のよさに気づき、感想を話そうとしている。【関】 説明書を読み、分かりやすい表現や工夫が見られて点について感想をまとめている。【書】 表現したり、理解したりするために必要な語句を増やしている。【言】

6 本時の指導

(1) ねらい

【書くこと】 組立て表をもとにして、まとめりや順序を考え、相手に分かりやすいように文章を工夫して書くことができる。

(2) 本時の展開 (9/13時間)

過程	主な学習内容	・指導上の留意点 評価
つ か む 5	<p>1 学習課題の把握 めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめりや順序を考えて、相手に分かりやすい説明書を書こう。</p> </div> <p>2 視点の確認 「だれに」「何を」教えるかを確認し、そのために教材文で学習した、分かりやすい書き方について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組立てをもとに書く。</li> <li>・作業や練習の順序に沿って書く。</li> <li>・一言アドバイスを入れる。</li> <li>・励ましの言葉などをいれる。</li> <li>・一文を短くする。</li> <li>・常体・敬体に注意して書く。</li> </ul>	<p>・学習課題を確認させる。</p> <p>・相手意識・目的意識を確認し、相手に分かりやすい書き方の工夫について、掲示物等を使って確認させる。</p>
ふ か め る 30	<p>3 記述 組立て表をもとに、説明書を書く。 ・視点に気をつけながら、説明書を書く。</p>	<p>組立て表をもとに、事柄と段落の関係を考え、書く事柄を工夫して文章を書いている。</p> <p>A 組立て表をもとに説明を書いた後に、動きや様子を表す言葉などを付け加えて、工夫して書いている。 小見出しに合わせて説明を書いている。 作業や練習の順序に沿って、書いている。 動きや様子を表す言葉などを付け加えて書いている。 相手・目的を意識して書いている。</p> <p>B 組み立て表をもとに、説明を書いている。 小見出しに合わせて説明を書いている。 作業や練習の順序に沿って、書いている。 相手・目的を意識して書いている。</p> <p>支 個別に対話しながら 組立て表の順番と小見出しとの関連を示し、文章の内容を考えさせる。 文章を書く時に躓いている子供には、掲示物や教材文の書き方に沿って、書くようにさせる。(個人診断票から)</p>
ま と め る 10	<p>4 本時の学習をふり返り 全体で代表一人の作文を、視点にそって振り返り、その後、自己評価を行う。 相互評価 自己評価</p> <p>5 次時の確認 ・今日の反省点を踏まえながら、説明書を完成させることを確認する。</p>	<p>・視点にそって、評価させる。 視点に即して評価する事ができる。 (評価シート)</p>